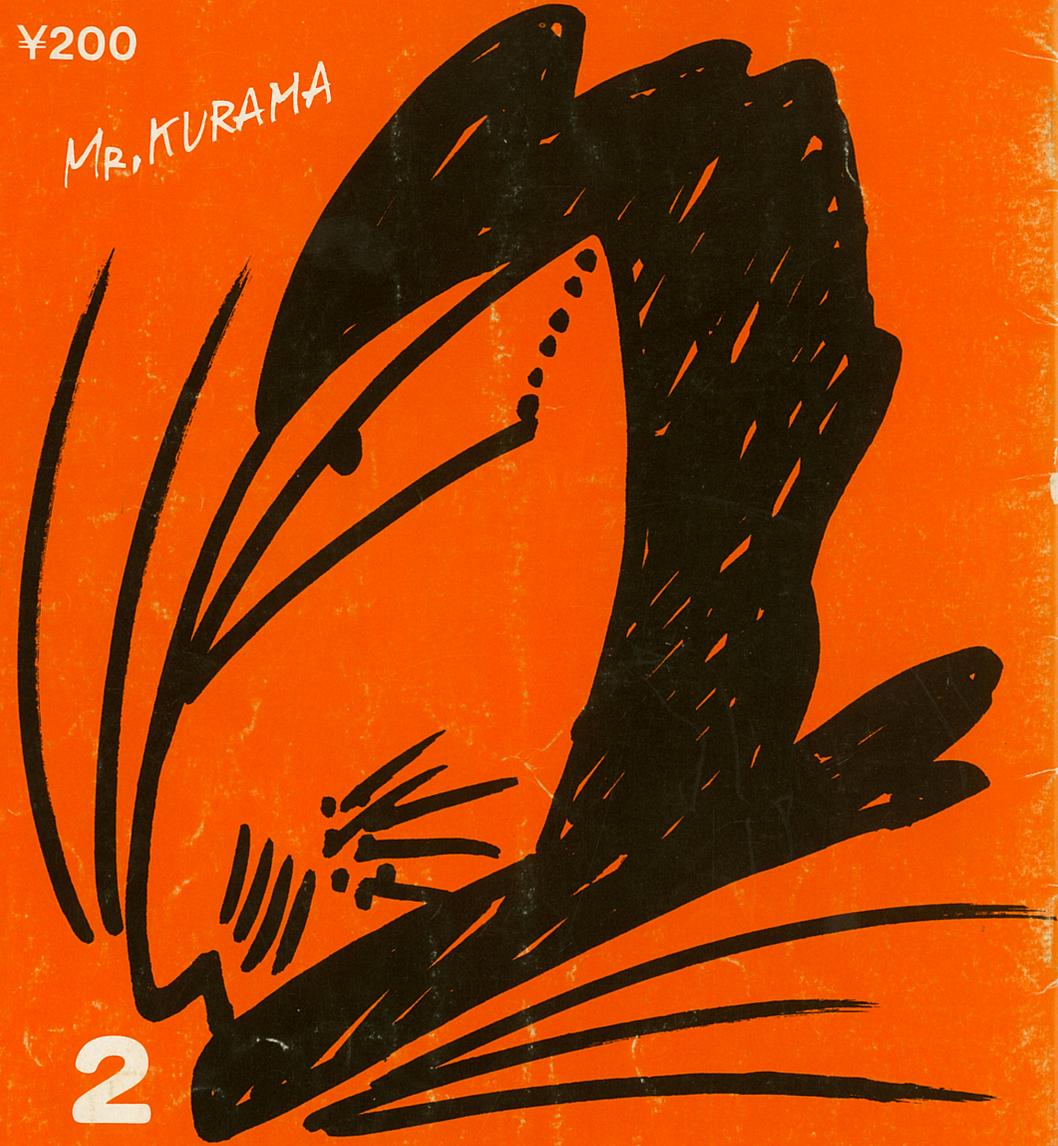


TOWN INFORMATION MAGAZINE

ふいにきた小樽

¥200

MR. KURAMA



2

NOW! NEW HERO

- P.2 D'TARU 80回紀行 山手線ぐるり
- P.4 インタビュー 平島山博物館
- P.7 梅っ子真性 田辺 順
- P.8 ろちろちの話し 夏川 雅博
- P.10 ホウにヒマの 小樽
・出陣者の舟 阿馬 幸一
- P.13 ロシア路道中
- P.14 たしなら坂
- P.18 小樽銭湯めぐり
・多摩川めぐり 一田 次一
- P.20 手紙の窓
- P.21 1940年の日記
- P.22 1940年の日記
- P.24 Books
- P.25 友に書きたる
- P.26 INFORMATION
- P.30 PICK UP
- P.31 まち・おせ・あじ



寒いですね
今年も身体に気をつけて……

小樽・八十円紀行

山手線ぐるり



その朝、もぐらは手宮の魚市場近く通称「しゃ」というめし屋兼のみ屋で焼酎を飲みながら、フツフツ……。「このくそ寒いというのに小樽の街を散歩しろだって。ひでよな。」

あの変醜長八十円紀行だから、取材費八十円だって、本当に八十円しかくれない。ケチノフツフツ……。

先月号はなんだよ、祝津までなら百円じゃないか、往復で二百円だぞ、するよな。フツフツ……。

そうだ山手線に乗れば、八十円で帰ってこれる。雪の中を歩かなくていい。いい！これで行こう。」

と、いった単純理由、横着発想、ケチ精神で、スタート！

運河沿いをトポトポ、トプトプ。いきなり計算違い。バス停までは歩くんだったっけ。とつても寒い、ヒゲがしはれる。気を紛らすために運河をのぞく。きたねえだろうと思つて……。

「オッ！」

薄氷がハスの様にはつている。メタンガスも閉じ込められて、サワヤカ、キレイ！

水の上では、かもめではなく、何故か黒いカラスがスケート大会。かもめ達はどこへ行ったのか？カラスに追い出されたか？

冬眠か？（無知ノ！）

倉庫の上のシャチホコ君、ウソ元気だ！

もぐらも元気で行こう。



堺町の「第一埠頭」でバスを待つ。待つ……待つ……待つ……待つ……待つ……待つ……

これは世の常、一般常識、当り前、この界限の建物は、なかなかいい。少し見て歩こう。

と、思ったけど寒いから、建物にびたしへばりついてバスを待つ。写真はのんべの本誌カメラマン君にまかせて待つ。ひたすら待つ。待つ。寒い。寒い。寒い。待つ。



来た。

急いで乗って運転手さんの後方3番目に座る。ここがバスの構造上、いっちゃん暖かいそう。

本当か嘘かわからないけど、なんせ、のんべでねばすけの本誌カメラマン氏から聞いたのだから。

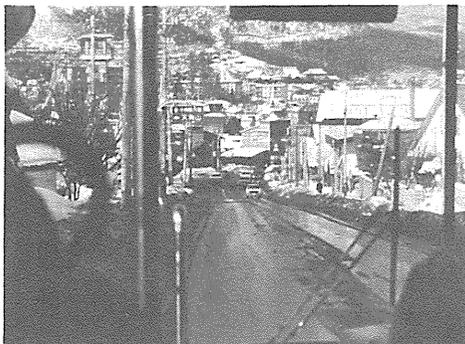


なにやら複雑な信号の交差点を通り山側へ。これからずつと上りです。もう冬休みも終わったんでしようか早起き学生君達、ちよろちよろ出沒。駅へ行く人、学校へ行く人。東に乗って、東で降りる。一人もぐらはとりのこされる。そう、朝の緊張感からとりのこされてボケーとして、酒臭い息をして寝不足の腐った目して寒さのせい、酒のせい、赤い顔して神聖な朝のバスを一人で汚しているそんな気がする。自然と顔は窓にへばりつく。

天狗山が見えてきました。さつきまで海にいたのにもう山の上狭い街ですね。そこがいいのです。「松ヶ枝町」に着く。ここが頂上。ここが小樽の山の手ですか？

「へー！へー！」

たしかに山ですけれどね、へー！へー！



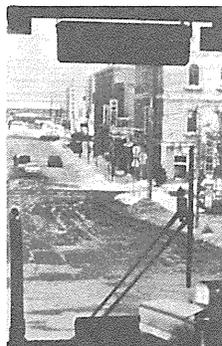
さあ、ここから下りです。「洗心橋」いい名前、橋ですね。と、言う例の、のんべでねばすけすけ本誌カメラマンの野郎が得意そうに

「この界限はその昔、遊郭があつて、遊郭ってわかる？女郎屋、売春屋さんわかる？ん？そこへ行った人が帰りにこの橋を渡って、心を洗って清めて、下界にもどった訳だよ。なつ。わかる？」

無知で無教養のもぐら君。」

と、教えてくれた。

ホー、これは本当くさい。でもあの、のんべでねばすけすけでけちな本誌カメラマン様の言う事だからな！



気が付くとバスは、「市民会館通」を走って地獄坂をかすめて一気に繁華街へ突入！

海が見えた。

坂の街ですね。ホント。一回りしている間に街はもう平常運転。いっぱい人が乗り込んで来る。三井銀行、日本銀行、等々、ウォール街を横目でながめ終点。

「おつかれ様でした。」

と、かの、のんべでねばすけすけでけちでくつぶしの本誌カメラマンちゃんか……。

「また飲みに行こうよ。」

と、無知、無教養、無節操のもぐら……。

「いいですねー」

と、のんべでねばすけすけでけちでくつぶしでやくたすの本誌カメラマンさんが……。

* 駅待合室の、のれんに向って歩きながら、酔った頭で考える。俺より先に乗っていた、いっしょに降りて、又次のバスを待っていたあの老人はどうしてるかな！

音楽酒場
DREAM
昭和通り
花園3-6 TEL33-0892

珈琲の店 居酒屋
海猫屋
小樽市色内2-2-14 TEL32-2914

蕎麦一筋
おとりの系
小樽市稲穂2丁目16番9号
phone 32-8686

自家焙煎珈琲
……コーヒーだけの店……
おとりの系
小樽市稲穂2丁目16番9号
phone 32-8686

インタビュー

小樽は再び燃えるか

話し手 三浦 始さん
 手宮で酒屋さんを営んでいます
 通称「三浦のおじさん」
 仕事好きと世話好きで町内では
 有名な

手宮人情物語

編集 こんには。昔の小樽のいろ
 な話を聞かせて下さい。

三浦さん なんもあんな、たしになる
 かわかんないけど。

編 三浦さんは、福島県の出身だそう
 ですか。

三 そう、私は福島県の出身で、この
 家の婿さんで、やって来たんだ。

編 北海道には、何年頃に渡って来た
 のですか？

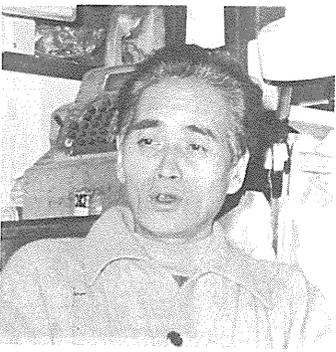
三 終戦後だから、昭和21年頃かな。
 編 話によりますと、北海道は小樽が
 最初ではなくて、その前に名寄で材木
 屋さんをやっていて、そして昭和24年
 に小樽の手宮に来て、それからずっと
 今まで酒屋さんをやっているそうです。
 三 そうそう。

編 小樽に来た時、最初に受けた印象
 はどうですか？

三 いやあ、やはり本当のふるさとの
 良さというのは、新しく作ったもので
 は、駄目なわけさ。

この山あり、川あり、海がある街は、
 作ってできるものではない。

ここに来る前に、満州の荒蕪たる原野
 で生活した事もあるし、名寄あたりで
 生活した事もあるけど、最後にこの小
 樽に来て、落ち着けるといふことは、
 このすばらしい自然が、この街にある
 からだと思うよ。



編 ほんとうに小樽は、風景や街並が
 美しいですね。

三 それと同時に、この手宮は人情味
 があるわ/苦しい時に「がんばれよ」
 と他人でも言葉をかけてくれる。

こういう人情味がね、実に来た当時に
 感じられたよ。

編 話がかわりますけど、最近特に、
 若者と三浦さん位の年長者の人たちと
 の分離が感じられるのですが、何かそ
 の事についての意見はありませんか？

三 そう、だから私が、あえて若い人
 たちのところへと飛び込もうとしてい
 るのは、そういう事なんだよね。

私が一つ声を大にして言いたいのは、
 市の主催する祭り、行事は、全部が企
 業からの寄付金なんかで処理している
 わけだ。ところが、去年の夏に開かれ
 たポルトフェスティバルは、寄付金だ
 けの祭りではないんだわ。体からあふ
 れる情熱なんだわ/祭りの終ったあと、
 私はあと片づけの様子を見に行っただ
 だよ。「おーい、いるのか」と言った

ら、「三浦さん、おーい」って、真
 つ暗闇の向こうから皆がわアアと寄っ
 て来た。「まだやっついているのか、おま
 えたち」「いや、もう少して終りだ。」
 「終つたらジュース飲めや」って二箱
 ばかりジュースを置いて来たよ。

この情熱はあんな損得では計算できな
 いんだわ。皆が裸になって、それも真
 っ黒になって夜の夜中まであと片づけ
 をやっている姿を見て、ほんとうにホント
 の時感激して、涙をこぼしたよ/ホント
 あの時の光景を、今の財界の連中なん
 かに見せてやりたいよ。

それに、大人たちがよく「今の若い者
 は」ってすぐこう言うでしょう。それ
 ばかりではないのだと私は言いたいね
 編 逆に若者をもて同じ事が言える
 と思います。「年寄が何を言っている
 んだ/」などと口ぐせにする若者もい
 ますしね。

三 そこそそそ！

編 お互いに理解し合えるように、も
 つと努力が必要ですね。それには話し
 合いの場があってもいいと思います。

三 そう、あっていいと思う。

編 これからの街づくりにしても、若
 者の力だけでは頼りない気がします。

新しい考えにつけ加えて、古い人たち
 の体験から生まれた知恵や考えなんか
 が必要だと思うのです。今の子供の遊
 び方にしても、自然で転がっているもの
 を利用したり、自分で工夫して作る事
 を忘れて、デパートに売っているおも
 ちゃなんか頼ったりするでしょう。

三 だからね若い者に「大学へいかな
 くてはいかん」「いい所に就職しなけ

ればいかん」って親たちが、あるいは
 世間がよく頭からそう言うでしょう。
 空間というものがなんだよ/空間が
 ないから、自然を使った遊びなんかか
 できなくなってしまうわけだ。

だから私のところで、終戦後樽みこ
 を出しているの。20年位前からね。

奥さん、うちの子供達がね、一升樽っ
 てこんな小さい樽を担ぎたいと言いつ
 出してね、うちの店にいたあんちゃん
 が、その樽に樽っこをつけてね、この部屋
 で担がせて遊ばせていたの。その小さ
 な樽みこしを、迹所の子供達があんな
 りさわりたがるものだから、そんなに
 皆が喜ぶものならやってみよう/じや
 いかという事になって、町内で樽みこ
 しが始まったの。

三 それで、最初うちの方で始まって
 5年、6年と過って、回りの町が始め
 たり、その次に豊川町とか、いろんな
 他の町内が始め出したりのね。

編 20年前まではなかったのですか？
 奥 子供達の樽みこしは戦前もほとん
 どなかったの。

三 それから祭りの時、子供にやるお
 やつは、無駄なものをあげなさいと私
 は思っているよ。

編 無駄なものを？

三 そう、無駄で、くだらないものを
 奥 くだらないものという意味ではな
 くて、なんているのかしら、今の親達
 は、あんまり教育ママが多すぎて、教
 育に役立たないものは一つでも買っ
 てはいけなみたないところがあるでし
 ょう。

三 そう、あるでしょう。



手宮市場、豊川町、手宮の街並

奥 私達もそういうところがあるのね。
 少しでも頭が働こうなものとか、字
 が読めるようになるものとか。そうい
 うものを子供にあずけるでしょう。
 そうじゃなく、お祭りなんだから、
 その日一日だけでも……

三 その日一日だけでも壊していいよ
 うなもの、子供が一番喜ぶようなも
 のを、親が駄目だというようなものを、
 子供達にやりなさいというわけさ。

編 はい、意味がわかりました。

三 わかるでしょ。世の中二つの空間
 さ。その空間が今の世の中には段々な
 くなって来ているからね。

ポルトフェスティバルは、若者と年寄
 りとが交流できる空間だよ。でも市で
 やっている祭りは、作つた空間だよ。
 もっと自然な空間が必要でしょう。

編 人々が生活していて、自然に生ま
 れるべき空間ですね。その空間がいま
 の社会にはないのですね。そしてその
 自然な空間がある街づくりをやりたい
 というのが、三浦さんの夢なのですね
 三 そうです。

編 今、日本配合飼料小樽工場閉鎖が
 問題になっています。港湾の機能がう
 まくってないという事が原因だと
 思いますが、これから小樽の港湾がど
 のような方向へ行けば良いか、何か意
 見がありませんか。

三 もちろん港湾機能は、発展しても
 らわなければと思っています。
 勝内埠頭を理め立てて、市の方で中央
 埠頭を、重点的に港湾作業を始めるで
 しょう。そうすると、第二、第三埠頭
 で何をやるんだというとき、それに
 石狩湾新港なんかかかってくる、今まで
 小樽に入っていた荷物は当然少なくなる
 わけだね。小樽市の理事者が、今まで
 小樽に入っていた荷物は、これから
 も小樽の港に入ってくるように要請す
 るという事になっているけれど、石狩
 の方に入つた方が運賃が安いという事
 になれば、そんな要請では駄目なんだ
 わ。利益だけを追求する商社ばかり
 安い石狩の方へ入りますよ。そういう
 事から考えた時に、今の第二、第三埠
 頭はどうするのだからという事さ。これ
 らは勝内埠頭の方だけで、荷物をまか
 ないされるのだから、私は第三埠頭を
 観光の港にしなさいと言っている。そ
 れに祝津・高島の船付き場も当然の事遊
 覧船でも作って観光の港にすればいい
 のさ。



中道埠頭、手宮の街並

編 そうなると運河も観光資源として
 残さなければいけませんね。

三 そりゃ絶対残さなきゃいけないよ。
 市では半分理めて、半分残すなんて言
 っているけれど、そつたらちゃんやな事
 では駄目なんだって言うのさ/

編 最近、大きなスーパーマーケットなんかがどんどん増えてきて、昔からの市場や、小さな商店なんか営業に影響を受けていると思いませんか？

三 まあ私の商売は酒屋だから多少は安泰だけど、いっとうなるかはわかりません。ただ私達のように、本当に小さい零細業者は、どんなに大型店が出ようとしても、細くは生き残るという事さ。奥 手宮にスーパーなんかでできた頃、うちの店の売り上げが、ガタッと下ったの。アパート住いの若い奥さんなんか、うちの前の、おしょう油の瓶を隠すようにして通る。でもね昔から付き合っているお客さんなんかは、高くていいから「届けてね」って言うてくれるの。

編 商売にしてもお金だけの問題ではないのです。商品とお金の取り引き以上に大事な事があると思いませんか？

奥 そのかわりうちの父さんが配達に出ると長いよ。「毎度、こんにちは、はい。なんかじゃ帰ってこないんだから。配達先におばあちゃんんかがいるらと、「三浦さん、甘いものがあるから上がなさい、まんじゅうあるよ、羊かんあるよ。」って調子でね（大笑い）編 個人的な事ですけど、僕の家のお客が八百屋なんです。やはりスーパーの進出で売り上げがかなり下ったんです。それでどうしようというところでお得意さんを残しているかという、本当に小さな客への心づかいなんです。たとえ、みかん一箱でも、時には大根一本でも配達してあげるとか、少しでも新鮮な野菜を、味のいい果物を仕

入れてくるように心がけるとか、そんな事を大切にしています。それと、商売以外にでも客と付き合えるような関係が必要だと思いませんか？

三 そうだ、そうだ。私なんかでも配達に出て、「こんにちは、やあしばら、おじちゃん元気か。」とか、「おばあちゃん達者かい。」とかそういう世間話でもしながら商売していく。そういうつながりは大事だと思うよ。それが我々零細業者の生きる道でないの。

編 私達の街づくりも、こんなふうにしてつなげていかなくてはいけないと思いませんか？

三 そうです。それには、ある程度古いものを残しておく事が大事だよ。

今年の正月に、うちの家をどこかのおばあちゃんが立ち止って見ているわけさ。よその家はやっぱり新しくきれいになっているけど、うちの家は昔からのままで、2階には格子戸があつて、石蔵もあるんだよ。それを見ておばあちゃんが私に、「あああれ三浦さん、まだあつた？」（まだ昔のままで残っていたという意味）「まだあつたもねえだろう、どっからきたのよ！」「はい、私10代の頃、九州に引っ越したんで、よ、子供の時、この近くに住んでいて、よく三浦さんの店にたばこを買いにこされたんですよ。って懐しそうに話してくれたよ。たまたま孫さんを探ねて小樽に帰って来たわけ。そんなお客さんが年に何人もいますよ。編へえ！



奥 ああね、お盆の時なんか楽しい位よ。たとえば、お宅のお姉さんと友達だったとか、お宅のおばあちゃんか昔こうしてくれたとかね。私は全然知らない顔の人だけだね。そんな人たちがお盆の時なんか必ずやって来るのよ。三 だからそれがいいって言うのさ。奥 うちの親達がよく言っていたよ。小樽は戦争当時、空襲にも会わなかったし、海があるのに津波にも会わなかったし、山があるのに出くずれもなかった、こんないい街はないの！

三 そう、小樽は天然じゃないの！本当に小樽は天然じゃない、風景も素晴らしいし、どうしてもっと観光に売り出さないのかね。それにはもっと若い人の力が必要だ。

奥 あなた、商大生？

編 いえ、一応働いています。社会人なの、若いわねえ！

三 ……………（恥ずかしがる）

三 オレもあと30才位若けりやあんた達と、商売投げても走り回るけどな。奥 だいたい投げたんだよ、去年のポートフェスティバルの時に商売をね。編 そうですか。（あやまるように）三浦さん、何か趣味は？

三 私は無趣味なの。でも嫌いじゃないのね。今は商売の方が忙しくてね。息子が油絵を描いているから、これかぜい息子を絵を習ってね、一つやってみたいと思うよ。

奥 あなた、何やっているの。

編 僕は唄を少し……

編 フォークかい？

編 ええ、まあそんなもんです。自分で詩を書いて、ギターに合わせて歌うのですけど。

三 そりゃいいんでしょう。うちの家内もね、詩を書いたりするのが大好きでね、よく私がどこかに発表したらと言うのだけど、恥ずかしがって発表しないんだよ。（笑い）でもそういう趣味を持つことは大事だと思うよ。それが心のささえとなつてだね。心が豊になれば素晴らしいと思うよ。

編 今日には本当に為になる話をありがとうございます。三 私も、あなた達若い人がやっている以上は、陰の力となつてできる限り力を貸すよ。まあ、がんばって頂戴！編 はい。

叫児楼佐々木君が来て、老人の小樽っ子の思い出を書けと言う。

悪い癖である。年寄りの繰り返しが何の役に立つ事か。と言つて断るのも曲がない。

一口に、太っ腹で大きっぱで、それで情があつたと言えは過ぎるかな。

小樽高商誘置陳情に、文部省に出向いた区会議員団（まだ小樽市にならなかつた頃）が、何の打合わせもなしにその中の一人のいいふりこき、敷地の方は地元で引受けることにしますと言明して、その場で小樽設置を決定した逸話がある。

明治末年の二十万円と言う金だから、今の金にして相当の金額であつたに違いない。

当然の事、帰つてから大めめしたが、なんとかまとめられて、全国五番目の後の名門校小樽高等商業学校が出来た話など、今の人には考えも及ばないところであらう。

儲かった。儲かるのが当り前なんだから諸事大ざっぱだった。

今に残る富岡町の立正校成会の建物奥沢の寿原邸。何れも海産商と米商が金に飽かして建てたもので、面白い事にどつちも完成を見ない前に没落して折角出来上がった豪壮な建物が別の人の住居になってしまった。

然し、建物は北の街の住宅としては、道内屈指の名建築として今に残っている訳だ。今の人ならそんな出鱈目なと言つたらうか。

剛腹とも言えよう。

樽っ子気性

田辺 順



近頃はとんとこんな馬鹿げた事を考える奴はない。然しその馬鹿げた奴が居なくなつて小樽は沈滞の方向に向かつたと言えないだらうか。

代議士も一期つとめた事のある寺田省掃と言う大長老が居られた。

銀行にも足を運んで話をつけて呉れると言つたことで大変なものであつたから、漸くことの後、農林省水産局長であつた後嗣がひどい目にあつた後日話が残されている程である。

ともかく、何よりも小樽のためになると言つてありさえずれば、よからうであつた。

こんな人も居たものだ。

遊びの方でも同じ事で、人あつて放蕩史みたいなのを書くつれば間違いないく登場するだらう人が、二人三人はいたであらう。

桁はずれの愉快な途方もない遊びの話が残っているものである。

儲かつたから買った。儲かつたから遊んだとばかり言い切れないものが昔の人にもあつたと思つて、近頃はそんな話は絶えてない。

時勢の変わった故もあるが、近頃の小樽人はちと賢くすぎる。

己を守る事にきゅうきゅうとして、眼中故里小樽などあるものでない。と言つたのが年寄りの嘆きである。

ところが、近頃その下の若い人達が途方もない事を次々に企てられる。ポートフェスティバルがそれだし、天狗山のウインターフェスティバルもそれである。

そこいらに新しい小樽っ子の意地と情熱が吹き出しているのを感じられて、限りない嬉しさを感ずる。

温故知新。昔を語ること必ずしも無意味でない。

フジカラーチェーンラボ

FUJICOLOR

フジカラー

CHAIN LABO

小樽現像所

■ かけがえのないカラー写真は！

純正仕上げのフジカラーチェーン店に

ANTIQUÉ & HAND MADE

小樽市稲穂2丁目17番17号 ☎ 34-0040

戲屋齋堂

小生、小樽で生まれ育ち、商業高校を卒業して現在はいしがない公務員として糊口をしのいでいる身、それがどうしてポートフェスティバルから夢街へとかわっていったか、極めて個人的な裏話。

友人の結婚式の発起人会で、さる喫茶店のマスターと出会う。これがそもそもの始まり……

婚礼が終わって、マスターいわく「小樽に港の祭が無いのがおかしい。港で運河と水辺を生かした祭をやりたいので、やってみないか？」
小樽っ子の例にもれず、祭好きで根がおめでたい方なので「いいねえ、やろう、やろう」深く考えもせず、単細胞的、不和雷同（あ、何たる軽薄さ）

サラリーマン、学生、自営業、自由業（早く言うるとルンペン）などなど……30人近い若者が結集してケンケン、ガクガク、いやはや仲々の壮観ではあります。
「俺、何すればいいの？」

資金ゼロなので、Tシャツとタオルを販売して運営資金の一部にする。その他にも竜宮神社、水天宮神社の祭にピアガーデンの開催、サンビルでのロックコンサート、広告寄付集め……
「どうだ、俺なんざTシャツ、タオル合わせて一〇〇枚も売った！」
「女の子でタオル一五〇枚売ったのがいるよ。」

ぶっちゃけた話

黒川 幸博

……途端にしょぼくれて「やっぱり女にやかなわんなあー」ため息しばしでありました。あ、女は強い！実感
会場借りるのに、市港灣部、土木部財務部、警察、土木現業所と各役所回り、多少、迂余曲折はあったものの、予想外に好意的でこちらがびびったり、借りられるとは思ってなかった。
日本のお役所も意外と親切なんだなあ。

街頭で、祭のチラシを2日間、朝夕配布した。心良く受け取って興味らしきものを示してくれるのは本心以上の人が多い。特に「おばさん」中年以上。「これ何？」「そう」「御苦勞さん」

反対に駄目なのが若いOLと高校生。OLは若いいい男に対しては本心と反対の行動をとる。
いい男のそばには行きたがらんもんで、テレ込んだなきつと、わかるよその気持ち、可愛いな！
高校生なんぞ、ピラ渡そうとすると、アッチ向いてホイの無視！無視！めんこくないこと、まあ、この！

ステージ作るのに畳一枚位の大きさの建築用パネルを、トラックに一〇〇枚位積んで会場に運ぶ途中、本局前の交差点を曲がった途端、パーンという爆弾でも落ちた様なすごい音あわてて急停止。
パネル20枚位、荷くずれで交差点にぶちまけてしまった。道行く運転手に怒られ、何事かと鈴なりのビル街の人々の注視を浴びながら後かたづけ。カッコ悪くて冷汗たらたら流しながらもうメロメロ、でも別にこれと言った事故もなく不幸中のさいわい。

祭前日、メリスフイツシュエマータットに集合した面々。明日が祭だと言うのに資金のメド立たず、設営の準備整わず、運営の方もメタメタ、赤字負担一人2万とも5万とも。
「どうなんだよ、俺、もう店たたんで岐阜の田舎へ夜逃げするよ。」メンバーの一人。
「あんたはいいよ、帰るとこあるから俺達どうすんだよー 小樽しか帰るとこ無いんだぞ、夜逃げ出来る奴あいいよ。」かくて夜は更けていった……

当日。もう文句言う暇とて無くて設営。3時の祭開始が、時間過ぎてもトントンカン、トントンカン。
「おい、何で高校生がこんなどこウロウロしてんだ？」
「バカ、祭に来たんじゃねえかよ」
「そうか、嬉しいなあ、可愛いなあ高校生は」
「何言ってるんだ、高校生はめんこくないんでぬかしした奴あ誰なんだよ」

つめて行つてさ、皆んな将来に対する夢を持つてるだろう、その夢を小樽で実現して行くにはどうしたらいいか、いわば小樽を夢のかなう街にする為にこれから運動して行かないか？
「ふーん」
「小樽には独自の文化があったし、今でもその当時の香りが一杯残ってるんだよ。運河の倉庫、古い街並、坂の多い市街、そして人情、いわば夢をかなえるのに絶好の街なんだよ。この街は」
「へーえ」
「誰でも将来に対する夢を持つてるだろ、自分が生まれ育った街でそれを実現させて行くんだよ。手づくりの文化って言うか、人の心の香りって言うか、具体的に何をやるのか、まだ俺もわからないけど、50年60年先を考えて息永くやって行きたいんだよ」
「へーえ」
「この街で育つたものが、この街を出て行く事なく食える様にするにはどうしたいか、一緒に考えて行くんだよ。若い者が食う為に街を出なくてもいい様にだよ」
「ふーん」
「オイ！聞いてんのかよ。若い奴が出て行ったら嫁さんにする女もいなくなっちゃうんだぞ」
「そしたらオマエどうすんだよ」
「エーッ、やる、やる、やるよ俺」
（どうも動機が不純で……）

「うるせえ、オイ！君達、良く来てくれた、我胸にひしと擁抱し熱き擁抱」
感謝の気持ちを！
エーッ何？ 君達男？！
実行委員会の予想に全く反して、夜に入ると人、人、人、人の波。
「変だなあ、何でこんなに人が来るんだ？ お前わかるか？」
「うんや、俺もわかんねえ」
頼り無い実行委員ではあります。

祭の準備の為に会社をクビになったのか、自分でやめたのかともかく会社とオサラバして打ち込んだ人、会場の受け付で一日中坐りっぱなしで2日間も続けたためとうとう倒れてしまった人、わざわざ美唄から何度も足を運んだ人、もう皆さんカッツだと言うか、バカだと言うか言うよ。
俺なんか自分が可愛いから程々にしかやんなかったもんね。反省。

祭の期間中、前後と運河の側に宿舎を借りてずっと泊まり込み。
期間中2人一組交替で徹夜で会場パトロール、祭2日目の早朝、眠い目をこすりながら新聞各紙を開く、道新、朝日の大きな扱いに食い入るように見める。「やるじゃない、手づくりの祭り」の大見出しに泊まり込んでいた20名近い若者大歓声。
胸がジーンと熱くなって、みんなで、「今日も頑張ろう！」

小樽は余りに長い間眠り続けていた。俺はこの街で生まれ育ち、この街に骨をうずめた。小樽っ子の美人を嫁さんにし、子供もこの街で働く事が出来たらどんなに素晴らしい事だろう。
俺が市長であれば、あるいは財界要人であればもっともって市民の為の、小樽百年の計を考えて街づくりをしてやるのにも思うがいせん、金と地位がまるで無し、残念ながら意欲はあっても、金と名譽のない男にはお呼びがかららない。残念ない。
精々出来る事と言つたら、自分の夢を実現する為に夢街実行委で頑張るのだ。古い街並を生かして未来とつなげて行こう。運河や倉庫群を再利用し、札幌から買物客を呼び寄せ、小樽人がガッツポ、ガッツ儲けるにはどういう風にするれば良いのだろうか。
18万人が食っていくにはどんな産業が必要なのか？
俺達自身で雇用を創り出して行く事がまちがったら出来るんじゃないか？手づくり工芸品の職人と呼び寄せ、一大産地にしてみないか。
ヨットハーバー、海中公園、近郊の山や海を生かして、市民の為のレクリエーションセンターなんか無い。
夢を考えていったらさきが無い。
とにかく行動を開始するのだ。
今、必要なのはドン・キ・ホーテ的な行動力、三人寄せれば文珠の知恵。
現在40名余り。
未来に夢を描いて、空中分解するかも知れないけど、やって見るのだ。
今は楽しい、夢を見ている事が出来るから。

祭の真最中。「死体があがった。すぐ来い！」
かけつけると男の死体の側で警察が現場検証の真最中。祭の警備責任者としてはもうマッサオ。
実行委員長と3人で前後策協議、3人とも顔面蒼白。
万一にそなえて一〇〇〇万円の傷害保険を会場一体につけておいたので、金銭面ではいくらかの保証も、しかし金銭で片づく問題ではなく、切腹してお詫びせねばと思つた。（前時代の？）
検証の結果、祭とは関係無い事がわかる。何とも言えぬものがこみあげて来る。それまでの数時間、生きた心地がしなかった。

祭が終わって後片付け、午後11時頃一旦中止して宿舎へ戻る途中、近くのおじいさんが「あんたら、ずい分よこれてえ、家でシャワー使いなさい」
汗とほこりにまみれて何日も風呂に入ってなかつたので、人の情けが嬉しくて、ありがたくて、シャワーを使いながら涙が出そうになった。

食事に行った連中が、ラーメンを食べたら、そこのおかみさんが祭のTシャツを見て「頑張んなさいよ」って一〇〇〇円寄付してくれと言った。
小樽は人情の街って言うけど本当だ！

祭は終わった。

随分いろんな事があって、多くの経験をつむ事が出来た。運河周辺は賛否両論かまびすしいので、一部にも迷惑の



8月のある日、喫茶店のカウンター

「ポートは終わったけど、運河問題を含めてもっと大きな眼で小樽の街を見

かいて、その後毎週一度の実行委員会に、ポートに引き続き参加する事になった。

運河と倉庫群が小樽にとってどういう意味を持って来たのか考えてみると昔は、多喜二の小説にも出てくる様に港湾機能として船と人夫が重要な役割を持っていない時代には、機能的にはなくてはならないものだっただろう。その役割が埠頭の近代的機械設備によって変わられた現在、機能的にはたいして価値のないものになってしまったけれど（倉庫は今でも貯蔵施設として重要な役割を持っているそうですが）人間の心に関わる次元では立派に働いていると思います。

人間にとって物質的な意味での便利さや都合の良さと言うのは大事だと思うけど、それと同程度、あるいはそれ以上に人間の感性・情緒も大切なものだと思います。

言葉をかえれば、人間が安らぎや憩いや落ち着いた気持ちを抱くことのできる機会をもつと持たなければならぬと言ふ事であり、そのため、そういう気持ちの持つ事のできる場所「空間を提供すべきなのです。運河と倉庫群の建ち並ぶあの空間は、すべての人々にとってくつろげる場所になり得るのです。」

小樽の街づくりを考えて行く上で、まず小樽の現状に眼を向けてみれば、20万都市として労働力人口を充足させるだけの企業は確かに不足していると思います。日配小樽工場の問題もあり、雇用問題は深刻であるからこそ考えなければならず、地場産業の育成は重要な課題です。でも恥ずかしながらこの

問題は勉強不足であり言えませんが。余暇施設はどうでしょう。映画館や体育館や娯楽設備はまあ充分だと思えます。

ただ、動物園と遊園地が欲しいです。「マウンテン」がなくなった事については何とも言えませんが……

でも、健全なスポーツに関するれば、夏は蘭島、塩谷、祝津、豊井、東小樽、朝里、銭函と海水浴場は豊富だし、冬は天狗山、朝里ホワイトパレードでスキーは出来るし、こんないい街は日本全国捜しまわっても見あたらないです。釣り人や山菜採り人にとっても山と海が目の前にあるのは好都合です。市場には新鮮な海の幸があふれて、うまいものは多いから主婦の立場からしても暮らしやすい街です。

あと教育施設について見れば、大学がもう少し欲しい気がします。文化施設では、美術館、郷土資料館があればいいでしょう。

でも僕が一番言いたいのは公園の事です。小樽には小樽公園と手宮公園の2つしか公園がないのです。しかもその2つとも斜面に沿って作られたものであり、僕はやっぱり平坦地に一つ大きな公園を作るべきだと思います。

僕がもと住んでいた仙台の街は、緑の街と言うキャッチフレーズを持っている様に、市街地のあちこちに市民がくつろげる空間がありました。

小樽の街を歩いてみて、意外にも市民の憩いの場となるような広場がない事

に気がきました。元来、平坦地が少なく幅の狭い平地のベルトが横に延びている地形だからそんな広場が作りづらいのは確かです。とすれば、あの幅45メートル、長さ1.5キロメートル（運河とその脇の道路）の空間が、市民の憩いの場として、さらに、他から小樽にやって来る人達のくつろぎの場として確保しなければならぬでしょう。

一体、あの場所を6車線の道路にしようと言う考えは何処から出てくるのだろう。確かにモーターゼーションの風が増激しくなる現状で、バイクで配達に走り廻っている僕も交通渋滞の酷いのは自動車の脇をスイスイ通り抜けていくけど、よりによって、小樽にとつて一番大切な空間、小樽の個性を示しているあの場所を破壊することはないじゃないか。

配達先で、店のおっちゃんに運河の事を尋ねると、「あんなきたない臭い所理め立てて道路にすればいいんだ。」と言う答えが返って来ます。一面でも汚った水と、堆積するヘドロ、そこから発する悪臭はセンチメンタリズムを打ち砕いてしまふ。

とても情緒に浸ってはいられない。しかし、その運河の現状を嘆いて埋め立ててしまえと言うのは、本末転倒も立ってしまふ。

昔は運河で泳いだり、釣りをしたりしたそうです。そういう清潔な状態を現在の不潔な状態にしたのは、生活排水

や企業排水をたれ流しにしたからであり、汚れるのにまかせておいて汚れの頂点に達した時に埋め立てようと言うのは最大の愚策です。小樽市行政の愚慢を批判するとともにそれを放っておいた僕達小樽市民も反省しなければならぬと思います。

運河は今のままではだめです。きれいにしなければなりません。きれいにする方法はあります。それは、まず運河に沈積したヘドロを浚渫して汚濁物をとり除きます。

次に運河に流れ込む生活排水は浄化設備に導き、微生物処理（活性汚泥法）し、水質汚濁防止法による環境基準値以下まで各項目（BOD・COD・SS等）濃度を下げ、処理水を運河に流します。企業排水は、各企業に浄化施設の設置を義務づけ、有害重金属や有機物濃度を基準値以下に下げさせます。そして処理した排水を運河に流せば、自然の浄化作用で元のようにきれいな運河になるでしょう。

運河から激んだ水とヘドロと悪臭をとり除けば、もっと多くの人達が運河の保存と補修に賛成してくれるでしょう。

なによりも、あの運河と倉庫の建ち並ぶ空間は小樽の個性であり、小樽に住む人にとつても、小樽に旅に来る人にとつても、心の安らぎを覚える場所になければなりません。小樽の街づくりはそこからはじめます。

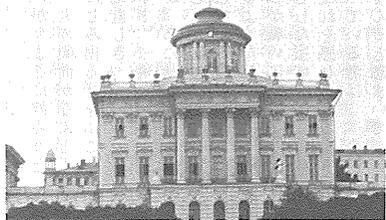
しかし、さすがにロシアで、下には水が漏れない様にカンジョウに出来ていたので、大騒ぎにならないで助かった。そうこうしている間にデザイナーの時間になり、我等は何くわぬ顔をしてレストランにおいていった。

「ウォッカもう一本もらおうかな？」と思いつつ、友人がクツの底の様なステアキと格闘しているのを見て、ロシアに来てるんだなあ」としみじみ思った。

横浜を出てから四日目、モスクワである。「思えば遙か我祖國、いつの日にか帰らん。」などと目を熱くし、横目でもう小一時間友人もクツの底と格闘して汗だくの友人を見て「日本人のあごも軟弱になったものだ、昭和三十年代の人間はだめだなあ」とま

ロシア珍道中

その① 怪人“社長”登場!!



またまた目を熱くしているのであった。小生は昭和二十年代、クツ底のステアキを、もの十分ぐらいで征服してしまひ、ゆうゆうとグラスをかたむけていた。早メシ、早グソ、早〇〇〇の「日本快男児」である。かたや小生の学友、日高のガス会社の長男で「社長」と友人達から呼ばれている「日本快男児」である。

さてこれから、我等のロシア珍道中が始まるのである。

モスクワに着いた第一印象は、ケバケバしい所であった。

まずホテルは、ガイドが世界一と胸をはる、（ロシア人はとにかく世界一が好きである。）ホテル「ロシア」でその広さには驚いてしまった。

一緒についた、ある女の子などはホテルの中で迷子になってしまい二時間近く歩きまわり、やっと小生達に会った時など、泣き出してしまつたぐらいなので。

とにかく同じ階を行けども行けども部屋にはたどり着けず階段を一階下りてまた登つて同じ階の部屋に行くような変な作りで、自分が何階にいて、その北なのか南なのか全くわからなくなつてしまふのである。

だから一階のレストランで食事だといつても、行き着くまでが大変なので

そのホテルの前には赤の広場がありそこはクレムリンや、聖ワシリー寺院があり、これらるやネギぼうずの様な屋根をした塔が何本も建つていて、それぞれが赤、黄、緑、金色などに塗りまわられており、まるでお菓子の園のお城である。

赤の広場は何も赤くはなく、クレムリンはレンガ色の塔の上に真赤で巨大な星がついていて、それが夜空に燦然と威光を放つており、はなはだ大時代がかつていて、いかにもロシア的だなと思わせる。

さてモスクワ第一日目の夜からとんだ事件が起こつた。

社長（以下友人を社長と呼びせてもらう。）と小生が本意にもいっしょの部屋にされ、日本人がホテルに着いて最初にすることは、「まず風呂に入ろう」である。

我等もそれに習い、お湯を入れ二人で入つた。

「いや、やっぱりこれに限るなあ、」などどすつかりいい気分になっていたところ、「桶がない、何かかわりになる物を持ってくるよ。」と奴が出てゆき、クズ籠を持ってきた。「お、これはいいな」と言いながら交代に湯舟に入り、湯舟の外で体を洗ひ、そのクズ籠を桶がわりにバシヤバシヤやつたものだからたまらない。

ここで我等は西洋のバスと日本の洋風バスの違いを全く気づかなかつた。西洋のバスは湯舟の中からお湯をこぼさないでシャワーで洗うように出来ていて、バスルームの中には排水口などは無いのである。

そこにもつてきて、我等二人は日本の洋風呂のつものバシヤで、あのクズ籠を桶がわりにバシヤバシヤやつたのだ。お湯はドアの下すき間から排水されてゆき部屋中いや廊下まで大洪水である。

二人が「あ、いい湯だったな、」ゴキゲンでバスルームを出た時にはもう後の祭りであった。それから涙ながらにバスタオルでふいて水がひけるまでに一時間もかつた。

しかし、さすがにロシアで、下には水が漏れない様にカンジョウに出来ていたので、大騒ぎにならないで助かった。

そうこうしている間にデザイナーの時間になり、我等は何くわぬ顔をしてレストランにおいていった。

クツの底との格闘も終りほろ酔い気分ではつとしていて、一緒に日本から来たバンドマンで何度もロシア公演をした事のある須田さんが「実はモスクワに外国人目あてに女の子が集まつて来る所があるんだよ。」と話し始めた。

さあ、それが社長に聞かせてしまつたのだから大変、クツ底との格闘をピタッ！とやめ、目つきが変つてきた。

「しまった！」と思つた時にはもうおそい、小生の学友数々いれども、この社長たるやこの手の話には目がないのである。

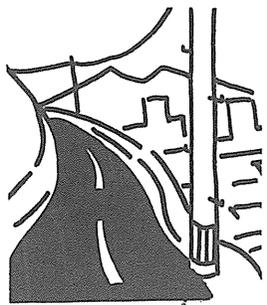
「どこだ!! どこだ!! どこだ!!」と始まつた。

「ロシアにはそんな事はないでしょう。」と小生、「いや、平和を願うおなごの心はみな同じ。人類みな兄弟じゃ!! ググググ」とまたわけのわからない理屈を言いはじめた。

こういう時の社長はその奇想天外な理論をもつて人々を圧倒するのである。さてどうなりますか、次号は「怪人社長モスクワの夜に死す」ですおたのしみに……

だんだら坂

鈴木 良徳



長く長い戦いが今まさに終わろうとしている。一人一人の顔面がなんとも言えぬ疲労と、にじみ出る汗をふこうともせず全身が硬直しきっている。

「終わった……」一瞬ため息ともつかぬとよめきが、あたり一面にもれる天井より中ほどまでにはタバコの煙が立ち込め、座している数名の頭上にのしかかってくるようだ。

今日もまた私が戦いに敗けてしまった。どんよりとした室の中で光る螢光燈の光が増々疲れを感じさせるようだ。勝利の味に酔っている者は、「今晚もやろう……」なんぞと息まいてる。「くやし……」「今日で何日続いている?」「十日ぐらいじゃないか?」にげない低い声の会話がポツリポツリ……。

部屋に散在するインラン・カップ(カップヌードルの事)の山々々。タバコの吸い殻は、あたり一面に広がり至る所の器の中に入っている。毎月毎月飲み屋さんから、シンデレラのごとく帰宅し、夜明け前まで……。

そんな生活が十日程も続いているよとは思えもしなかった。風呂にも行け

ず、買物にも行かず戦いの毎日に明け暮れているよとは……。

誰かが「窓でも開けましようや、何か陰気くさい……」もう外は夜明けまじかの藍色の世界でした、タバコの煙は薄す暗い世界の中へ吸い込まれていってしまった。

妙にちらかり放題の部屋だけが、淋しく写って見える。やがて、仲間達が疲れた体を引きずりながら帰床し、散在しているゴミをかたづけようとした時に、陽が登りはじめました。

何故か、なつかしさが急にこみあげてまいりました。

こんなすがすがしい気持ちと遠い昔に置き忘れていたようです。坂の上の下宿屋に差し込んでいた光が、小さく……そしてだんだん大きく光り輝やいて行くのを見てると、何か今までの自分が小さな小さな生き物のように思えてなりません。

陽が登り始める頃には、鳥達のさえずりが聞こえはじめ、朝霧の中から一つまた一つとはつきり、朝霧の中から一つ見えはじめてまいりました。

機械の音はなく、確かな自然のささやきだけが、夜明けを知らせているよ

うでした。ただ突然とたえずむ自分の姿が人形のようなので、後で吹き出し笑いをした。もう五年ぐらい前の事だっただうか……。

※ ※

若干二十四才十ヶ月が、この小樽に住みつき、月日の流れの速さと、老いてゆく我が身に時の流れの重さを感じてしまふ今日この頃となつてしまった。

何故小樽に舞い戻り住みついてしまったのか……。そもそも私が幼少の頃生まれ育ったところは、あの歴史豊か古城の跡が残る函館、何故かこの小樽と似たものを感じ身へる街並みです。生まれれた当時の私は、回りの家族より一身の愛情を注ぎ込まれ、男一匹知性であり余る教養を身につけていたの

でありました。しかし、何故か私は、女性と話す事を嫌い、常に冷たい感をまわりの人達に与えていたようでありました。

「あの人のあれでもすましているつもりなのかしら……。まるでアヒルね。」「やあねえ!。まるで狼みたい」「足も短く短くしてツツバルな」など……まわりの中傷には、顔は借したが

す。日一日と街並みが変わりて行くのが、おそらく廻りの人達は気付きながらも、平凡な毎日の出来事としか見えないのではないのでしょうか。

慣れた環境にある人々にとっては、落ち着いた生活がそこにあり、とり立てて考えるほどの事ではないでしょう。廻りの環境の変化はある人々にとつては時が流れて行く事と同じ意味合いを持つものなのかもしれせん。

以前、わたしの生活の基点であった地獄坂も、廻りの人々にとっては、たいへんなものなのかもしれせん。しかし、小樽のどの地域よりも、どの場所よりも美しいこの坂道を知ってほしいのです。地獄坂を下る時の小樽の姿が本当のものに思えるからです。

治道をうめる樹々は、「春夏秋冬」四季を力いっぱい表現し、自然と触れ合うことのできる数少ないところだと思えます。

今はもう取りこまれて、無くなりませんが、南大田校舎が現存していた頃、小樽の中で、西洋を感じさせる貴重な建物であったと思うし、樹林の間からながめられたバルコニーなどは、なんとも言えぬ美しさを漂わせていたのです。老いた校舎にふり注ぐ光とそれを取り巻く自然との調和が、なんとも西洋映画を見ている気分を味あわせてくれたのを覚えています。

真冬のきびしさは、春になると忘れてしまいます。そうさせてくれるのがこの坂道であり、自然なのです。

国道まで続く、長い長い道のりは、けつして楽なものではありません、そ

小樽の某高校に入学したのが小樽への第一歩だったのです。今でも覚えておりますが、駅前などは、今のよう

に素晴らしい建物ではなく、泥と汚い街並みだけが強く印象に残っております。耳は借さず、私の道が思うがままに歩きたづけていたのであります。

そんな私が、我が最愛なる父上の転勤の命により、ある田舎の駅に行つたことが、思い起こせば、小樽との出会いの発端であったような気がします。その頃になりましたよ、いささかクールな私もホットになり、多少(の多)女性に興味を懐きはじめてようです。

約二年半ぐらいの田舎生活がつづき、その頃は明治時代の大正時代の建物がある、このころの、明治、大正、昭和初期だったような気がしてなりません。

※ ※

再度の転勤により、小樽に一年ほどしか住まわら私でしたが、小樽を離れ小樽を思い起こしても、あまり強いものがなかつたような気がします。そんな私がヒュン、な事から、また小樽に舞い戻つて来た事が、小樽との係り合ひのはじまり、不思議な縁のからみ合ひだったのでしよう。

数々の女性との出会いと別れが、私を天国にも地獄へにも……。常にエレベーターのごとく……気持ちの良かったものです。そこにはもう、あの遠い昔に思われる我が姿はなく、ありあまる知性と教養は、赤いバラとの出会いで

それは、小樽全体が山、そして坂であり誰もが味わっている苦しみだと思っております。

『行きはよいよい、帰りはこわい』こんな詩がありました。小樽に住み今まで幾千万の人達が、この坂を登り小樽を離れて行きました。

しかし、けつして忘れる事のできないのは、学友や先生や友じゃなく、「地獄坂」という、おそろしい呼び名のこの坂道が、人生への大きな岐路であったことを……。

そして旅立って行つた人達の「ふんぞり」でもあってほしいのです。

だんだら坂を、歩いてごらん春の足音、すぐそこに肌を感じるつめたさは澄みきつたこの街のよう

だんだら坂を歩いてごらん見えるよ我が街、港町アカシヤ並木のこの道は地獄へ通じる、坂らしいむかし、むかしの言い伝へ今も残る街だけで

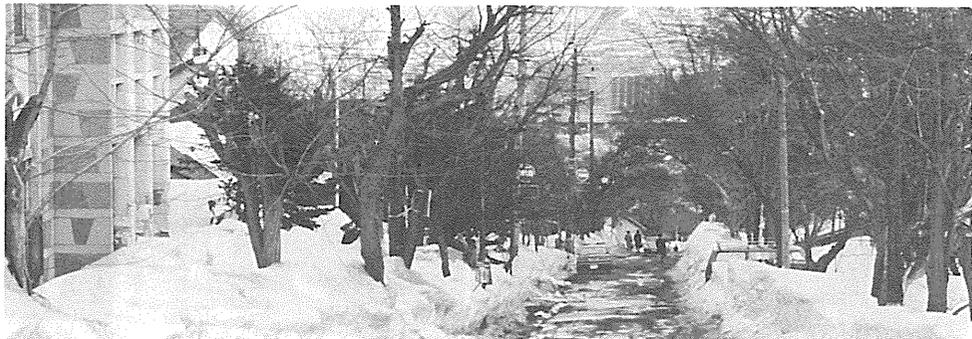
山、坂、越えて、歩くのも人の生まれる、道らしい新しいのと古いのが、入り混つたこの街が、なぜか、僕を引きつけるそんな、だんだら坂の街が……

つぎつぎと崩れ去っていったのであります。わずかに残っていたものは、高校を卒業後、一年、一生懸命遊び、この小樽の夜間大学に在籍できた事です。しかし、さる事ながら、この夜間大学、個性に満ちあふれているというのか、ユニークと言うのか、なかなか、楽しい毎日を通り過ぎてきたまじまじの生活は打ちひしがれた、あの三年間の生活を呼び戻し、なおかつ「アヒル」から「ニヒル半」まで押し上げ、輝やかしい、夜の大学生活を送るに至つたのであります。

※ 私、仕事上小樽の町を隈々まで見て回ってあります。赤岩、祝津、新光町や銭函など、一つの町には、必ずと言ってよいほど、素晴らしいものがあるものです。

また小樽はこの五年ぐらいの間に山へ山へと広がりつつあります。今までつい昨年まで、畑であった所が、林であった所が、すっかり造成され、住宅地へと変身してあります。

主要幹線などはすべて舗装になっており、町の隈々まで行き届いておりま



この長い坂道を下りたら
子供の様に丸くなった
温たまることもない僕の背に
新しい上着を着せて
冷たくなった僕の記憶
温めていよう

陸地に乗り上げてしまった
僕たちの航海を
再び海の真ん中へ
連れ戻してやるために

この長い坂道を下りたら
遠まわりばかりで疲れた
物語のない僕の一日を
いつも出会う小さな少女の
背中のランドセルの
白いハンカチのように
折リたたもう

忘れかけていた
小さな気づかいを
忘れかけていた
ひらがなを思い出すように

バザール始末記



「手づくりバザールをやらう！」人も集まる、仲間も増える、その上自分達の手で作ったものを使ってもらえる、こんな旨い話はないぞ……と言いつつ、私が夢の街づくり実行委員会主催第一回夢街市場開催決定！

小樽で手づくりのものをやっている人は沢山居るはず、その人達に声をかけてその品物を持ち寄って実際に売ってもらおう。自分達の手で作ったものを発表する機会がなかったんだから、そう言う機会と場所を夢街で提供する訳。何でもお金さえ出せば手に入るってのは面白くも何ともないんだ、自分で材

料揃えて、どうやったらいいものが出て来るか考えながらやるってのは、こりやえらい楽しみだぞ。それを買いに来てる人に判ってもらうには、どうやったらいいんだろう。

「お客さんがどんな興味をもってくるようにせないかなあ。実際に造ってる場所を見てもうどうにしたらどうだろう。その品物がどうやって出来るのかってどこを見てもうええ、自分もやって見ようって気になるし、売り手と買い手の会話も生まれるだろう、そうやって沢山のつながりを作って行けばいいんじゃないか？」

「お前、何か自分の手で作って売れるようなものないか？」

「皆んなジャンジャンいろんな人に声をかけて品物集めて来ようよ！」

「* そうですね、手づくりの物ってのはいいものなんだ。この頃の機械で作られたものに比べて、暖か味はあるし、丈夫だし、自分で作ったんだからちょっとした事で直せる。それに楽しい、段々出来上がって行くのを見るのも嬉しい、どうだ、出来たぞほら、ほら、見ろ、見ろってね。」

そんなこんなで短い準備期間にも関わらず、場所も小樽国際ホテルの2Fホール前に決定、設営にも金のない事もあって色々考えて、ケールドラマと言う糸巻の親分みたいなやつを使って、これが売り台、昔のトランクや和裁に使うばん板や張り板、船のラット

もディスプレイに使って見た、やたらデカイ織も貸してくれる人がいて、会場のあちこちに吊り下げた。

なんのなんの品物も、パッチワーク、刺し子、編み物、染色、アートフラワー、軍手人形、手づくりネクタイなんてのもあったし、女の子が余った布切れで袋を作ってくれたり、フェルトでマスコット人形を作ってくれたり、伊万里焼の瀬戸物なんてのもあったり。もう言葉では説明しようたつて駄目。よく見て、自分の手でさわってあ、そうやって事になるんだと思う。

実際にお客さんに作り方を教えている一コマもあつたけど、教える方も教わる方もすごく真剣で、でもすごく暖かたかいなあという光景でした。

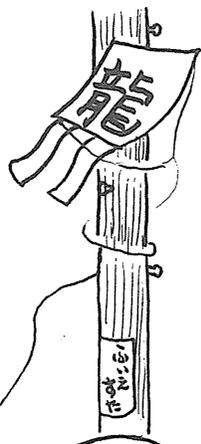
「* バザールはこれからも何回も何回もやってくるつもりだし、このバザールから小樽の地場産業にまでなっていくようなものが生まれれば、どんなに素晴らしい事でしょう。」

これからの課題はたくさんあります。それを皆んなで考えて行かなくちゃいけないんだ。まだまだこの小樽の中に埋もれているもの、これから生まれて来るものがあるはずなんだから。どんなに小さなものでも構わない。そこに暖かい手のぬくもりが感じられれば……

心の豊かさ、手のぬくもり、私達はそれを求めているのです。

問い合わせ 喫茶 叫児楼
TEL 32-8937

しばれる日は動いている方が ストープより あたたかい 手づくりの遊び



竹ひごをほつちを対称に組み交差部分はめん糸で結び、接着剤で固定。次にバルサ材、揚力板を作り、ホログラムの内部に固定。次は周囲にたこ糸をほりまわし、和紙をはりつけ、90°のししを100位とり折って糸の結び目をほつち、糊を水で薄めて糊塗り、ほつちをほつちで全糸にほつちのカラーを塗るとよいおもひ。



雪上コンバットの作り方

雪で遊び(囲)をやる(作)る。高さは約100cm程度。竹ひご100cmの間に雪をほつち、雪で爆弾をほつち、手榴弾をほつち、おもしろさは増すのです。

竹スキーの作り方

まず竹をこの割りにします。約40cm程度、先の方約10cm位のJUMPERと、お尻の長クジの先がうまくなり、お尻の先がまっすぐ、最後は雪面に滑るのを滑る、お尻の先がまっすぐ。



毎月第3木曜日ライブ唄長屋

音楽居酒屋 一匹長屋

花園3-3-3 (32)4049

毎夜9時 一匹みのるの三曲長屋

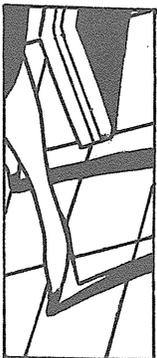
8-3 NISHIKI MACHI OTARU SHI TEL 32-2235

MERRY-GO-ROUND

旅に出よう

京の洛外

ジョギング旅行



少しずつ上り坂になる道を歩いて行くと、10〜20メートルおきにお堂が見えてくる。

この霊場にはいろいろな御利益がある。巡礼道を一廻りすると厄除になると言われる。また41番六角堂のお堂のまわりを子供の名前を唱えながら年の数だけ廻ると、子供のオネシヨが治ると言われている。

仁和寺の西門を出ると、2つに道が分かれていて、道を左にとると、家並を100メートルほど歩くと「一番観音みち」の標が見えて来る。一番目のお堂、霊山寺、二番堂、三番堂も見えて来る。

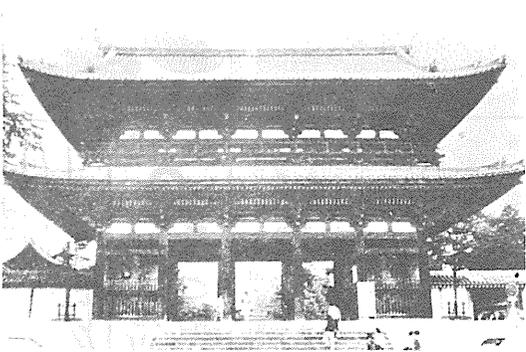
堂の大きさは、皆、二間四方。堂の中には、阿弥陀薬師、大日如来などなどの本尊と、大師像の二体が安置されている。

堂の前の地蔵には、何枚ものよだれかけが結びつけられている。又、「苦しまずに極楽へ」と書かれた紙がお堂に貼られている。

京都駅より市バスで約30分、御蔭仁和寺前下車。バス停の名の通り、そこには、御室山仁和寺がある。

今日、紹介するのは仁和寺の裏山、「成就山」この山道沿い3キロに、88カ所のお堂が配置されている。

四国霊場の砂を持ち帰り、お堂の下に納めて開いたと言う事だ。



48番堂がこの山で、一番高い所に有る。このお堂を過ぎると、上り坂からなだらかな下り坂となる。65番堂近くには茶店があり、その奥には小さな滝もある。池の中にある68番堂、まるで金閣寺のミニチュアを見ているようです。

この旅もだんだん終りに近づくにつれて、市中の音が聞こえて来る。88番大窪寺を過ぎると結願所の前になる。

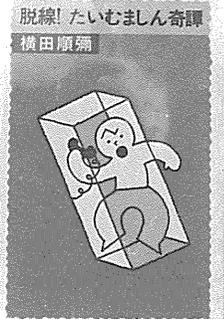
2時間足らずの小旅行、どこへ行っても人間ばかりの京都の中で、こんなに歩いて4〜5人の人間としか出会わない、これが洛外の一歩の味わい深いところではないだろうか。

BOOKS

一冊の本が 深い眠りを……

横田順彌のハチャメチャSFはダジャレのビックリ箱だノ

フイエスタ編集部から、今月の本の紹介を頼まれ、「ハイ」と返事をした後で、しまったかと思ったが、もう遅い。ケチ編集部からは、本を買いお金は出ないのだ。しかたないと不機嫌な僕を、グチョグチャに笑いとばしたのが横田順彌の「脱線!たいむしん奇譚」(講談社・七九〇円)なのです。



以前彼の本を何処かで読んだことがあって、それはたしかSFの短編で、月刊誌だったような気がする。この本は月刊誌に載った短編が九編ハチャメチャに収められている。どんな風にハチャメチャかと言うと、たとえば出てくる珍獣の名前がすごい。口が八つ、手が八つの植物「口八丁手八丁」とか

胴体百個に首一個の宇宙動物「百人一首」、スライムにしてかつおぶしをかけるど死ぬ、鬼の異星人「オニオン星人」など、こんなのが飛びだしてきて、そのうえダジャレの洪水の中を泳ぎまわるのだからタマラナイ。

又、前編に出た主人公達が作者にやまかせられんと、対談調でSFを作った。やう「メグロの決死圏」などは彼の特別あつたえのパロディだろう。彼にかかると、ワイ談も、スペースオペラも、四畳半ドラマも、健康的なかわいた笑いになってしまう。

とにかく面白い。精神安定剤的破茶目茶奇想天外科学小説必読。

冬の寒い日、囲炉裏でもあったら、昔話を聞かせてやりたいな

ハチャメチャSFの後に童話の紹介なんて、僕の頭の中がハチャメチャな証拠みたいにもんで。

2冊目の紹介は「手がきの童話集・女鬼」(作・今井靖之 絵・中畑ゆかり アテネ書房 八〇〇円)という本で、著者は江別市に住み、出版社も札幌市と生粋の道産子雑誌です。

以前この本の一集を買って、とても気に入っていたのですが、つい本屋離れて気がついたら、もう五集までいっ



てたんです。この他に絵本も一冊でているのです。

さて五集の本ですが、ずっと今井さんが使っている、話言葉が多くなか出てくると、あの北風のひゃっこい感覚が、手の甲や、ほほにちくちくと、ささってくる。そんな物語りになつてくるんです。前書きにも書いてあるんだけど、「小さな声を出してよんでください」って。本当にそうすると、目の上がちくちくしてきて、ページのすきまから、炭で焼いたおもちの香りが、ぷくんとしてきます。

絵はモノクロなんだけど、ペン描きや、墨絵で、とってもめんどらしいのです。最後にこの本は三つの話で構成されているんだけど、どの話も何か最後の一言が足りないような気がするんだけど、後でそれが頭の中で気がかりになつちゃう。あつたか／＼くして、コタツの中で読んでほしいな。

OTARU **ishii**
画材専門店
石井ガクブチ店
小樽市花園1-10 TEL 23-2492・32-4379

コーヒーの香りの中で別世界を……
アンティーク喫茶 **伊麻里**
おたる長崎屋東通りマルゼン2階
☎0134-33-2340

がらひいや
六ペンス
3-5-1 HANAZONO OTARU
PHONE 32-6984

カメラで家庭の日記を
カメラのグラフ商会
小樽市花園銀座 電話☎2121

INFORMATION

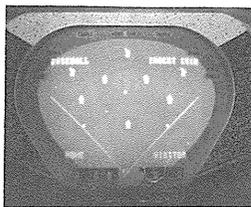
小樽の町を歩くときの生活情報

ウインター・リーグはこれだ!!

長崎屋ゲームコーナー、松竹ボウリングゲームコーナーに置かれてある「ボール・パーク」と呼ばれるテレビ野球ゲームを君たちはもうやって見たかな。この2・3年テレビゲームの発達はめざましいんだけど、遂にここまで来たかと言う気がするネ。

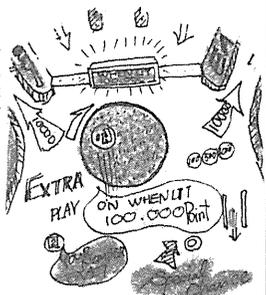
何と言ってもすごいのは、直球、変化球などがコントロールにより投げられる。テクニク次第によっては魔球だって投げられるのだ。

まず一〇〇円硬貨を一枚入れると、ベンチからホームチームの選手がトコトコと守備につきます。外野は手元のコントロールで左右に動かす事ができ、内野はボールが飛んで来ると自動に動いてボールをキャッチして一塁へもやるのだ。場合によってはダブルプレーもやるのだ。君たちもやってみない?

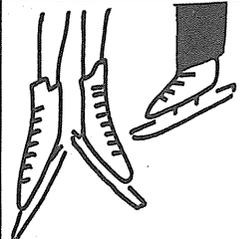


流行

まだまだテレビゲームには負けられないぜ



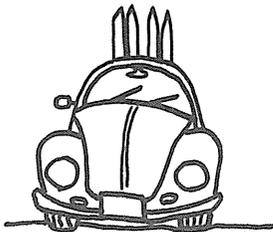
今、小樽で一番売れているピンボールの台は、東宝ゲームセンターに置かれてある「ボールキック」だ。そのユニークなポイント加算の方法は今までのピンボールには見られなかった新しい醍醐味を与えてくれるのだ。まずこの台のメインに当るのは、中央部にある円形のターンテーブルで、ナントそのテーブルの上にのせるだけで10万点が加算されるシステムになっている。ところがナカナカその上にはのつてくれない。もう一つの特徴としては、YOUR NUMBERのランプがフラッシュしている間は、スコア末尾の数字を黄色のボタンで変えられ、ゲーム終了時にこの数字がプレイフィールドの数字と一致すると再ゲームできるのだ。その他いろいろなボーナスポイントシステムになっている。55万点めざしチャレンジしてみよう。



グガツと踏んばれ

第4回 北海道・雪の祭典
今回で4年目を数える雪の祭典、今年にはニセコ比羅布スキー場をメイン会場に堂々の開催であります。期間は3月3日と4日です。キミも寒さに負けずグガツと踏んばって賛加しよ。

内容も仲々のもんなじやよ。
「見よう」|| テレビマンガヒーローショーウ、花火大会、郷土芸能大会、歌謡ショウ、ハングションコンサート、全国スキーファンタジー大会、全道歩ススキーの集い、SAJ公認パッチテスト、スキーリフト無料サービス、「遊ぼう」|| 道産子広場、遊覧馬そり雪中ゲーム大会、フアイヤーストーム「食べよう」|| 食べ歩きコーナー、特産物コーナー。
こんなグーな感じのニセコに行て見ないテはない。スキーかついでフイバー、フイバー!



梅

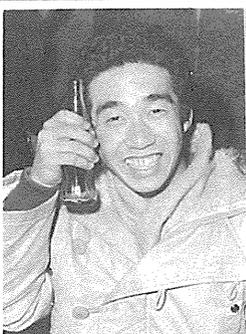
どじつてだるう

小樽の冬と来たらスキーとなるけど2年前まではスケート場があったのだ。札幌真駒内に比べりゃ月とスッポンぐらいたけど、ちゃんと市営のリンクだったんだから……
どうしてなくなっちゃったのかいろいろ声はあるけれど、今じゃわざわざ札幌のそれも真駒内までじゃ行くまでに寒いし疲れちゃうし聞く所の話しによると、経営不振とリンクの整備にあたっていた人たちの都合だそうです。小樽にもスケートリンクぐらいいあつてもいいじゃないか。

ト

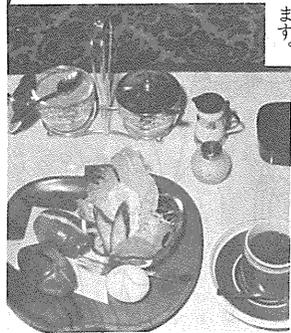
彼は歩くビツクリ箱だ

今回は知る人ぞ知る、知らない人は全く知らない名(迷)バンド、スターレスのボーカルをやっている大橋 哲くんについて見ました。
彼の口癖は「似合ってネエッテノ」でありまして、これは特に仲々良い感じのカップルに対しての場合が多い様です。これはスタッフの見解によりまして、彼のひがみ根性の表われであるとの結論に達しました。



それでも意中の女性は8人もいるとの事で、スタッフ一同「似合ってネエッテノ!」一度鏡とトッパリと御相談なさった方がいいとのサジェスチョン(ほのめかし、暗示)を彼に与えたのであります。
彼も彼のオヤジさんも国鉄職員でありまして、どうもこれも「似合ってネエッテノ!」……年とってからライヴハウスのマスターになりたいと言っていました。

まず最初に登場するのは、かの「男の殿堂」だった「マン座」のあとに出来た「パンの木」であります。
このモーニングセットは、手作りのパン2個(ジャムとバターがはさんで)とサラダ、ゆでタマゴ、それとコーヒーでありまして、味も仲々のです。それに加えて、何と300円と言うお値段!もってけドロボー!
安さでお涙頂戴のモーニングであります。時間は9時半〜1時まで、他手作りチーズケーキなんかもあつたりして、メニューも豊富な店であります。



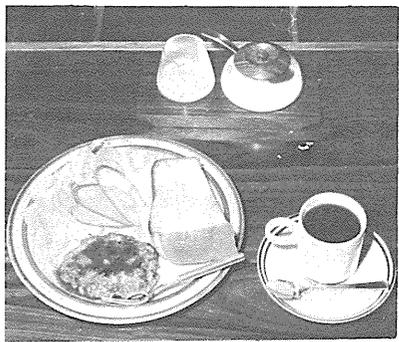
今のバンド、スターレスとしては、とにかくいろいろな曲(ティスコから歌謡曲まで)をやりたい。その場に応じた音楽を目指すと言う事です。
彼のガンダーラも仲々のものです。好物は肉と野菜、酒と女。特に後者の2つは好きでしょうがないと自他共に認めるほどであります。
1月9日で19才になつたばかり、若いってイイネエ。

梅

これは朝メシ前だ!



次に登場めさるの、開店ホヤホヤの新顔「マーサ&ターナ」であります。このモーニングには名前がついておりまして、その名も「マーサセット」と「ターナセット」。マーサの方はミニハンバーグとサラダ、パン、コーヒー(デミカップですぞー)でして、ターナの方はハンバーグの代わりにハムエッグが付くのであります。
値段は両者引き分けの450円です。時間は10時〜1時まで、遅刻厳禁! この店はニューフェイスゆえ、健闘を祈るものであります。場所は稲穂町の北川眼科の向かいです。



最後に登場は「マッチボックス」であります。この開店時間は11時なのでモーニングと言うよりランチと言った方がいいかも知れないけど、その分2時までがサービスタイムだから、得とも言えますぞー。
その内容は、ハンバーグ、サラダ、イモ料理(フライドポテト等)、トースト、コーヒーorコラでして、占めて400円/仲々ボリュームもあつて昼食にはピッタシです。
この他にもチーズサンドセットもありまして、こつちも仲々の350円。
2時以降も50円増ではあります。同じ場所が食べられるんです。
あなただけの叫びの斜め向かい、そしてあなたの家のそば、学校のそばの喫茶店のモーニングも紹介して下さい。

女子のはたちの旅立ち



「メイト・イン・ホッカイドウ・小樽より愛をこめて」と題した全道4ヶ所ロックツアーは、2月1日帯広を皮切りに、2日釧路、5日函館、8日苫小牧で行なわれます。

小樽に続いていろいろな地域で若者の街づくり運動が芽ばえ始めています。この全道ツアーを通じさらにもう一歩踏み出そうという事です。

彼女が札幌に勤める、とある有名会社のOLで、我々のインタビュに心快く応じてくれました。晴れ着を着たのは今回で3回目だなんて言っていました。どうして、どうしてその魅力にはスタッフ一同、負けそ！

彼女に言わせると「着物を着ると身がひきまされる感じがします。でも、おながすいても帯がきついの、食べたい物も食べれないのがつらい」と可愛いわさべれな口がたがった。まだまだ色気より食い気と言った所ですなア！

コンサート ガイド 2月

「続・ぼくたちからのあいさつ」

「ブック・ストリート 79」

タウン・タウン・ギョウギ・バンド

15日

PM.7:00~

¥1000(飲み物の通し付)

出演 熊谷ひとし・下村実・鈴木良作・矢野あかり

18日

PM.6:00~

前売り ¥2000

当日 ¥2500

主催 音楽鑑賞協会 (22-5513)

LIVE

唄長屋

14日

¥?....

詳細不明のために、これ以上書けません。直接「一匹長屋」へ夜でもいってね!!

市内のアマチュア・ロック・バンド「キャプテン」と「オーバー・ナイト・センセイション」が3月の中旬に市民会館大ホールでコンサートを開きます。2つのバンド自身が主催で光栄堂とMAKが後援です。ゲストに「ストレイタス」と「ブラック・ウイドウ」を予定しています。ここで彼らのメッセージを紹介しましょう。

「このコンサートを最後に解散するので、悔いのない様に精一杯がんばります。」(鎌田光一・キャプテン)

「カルメンマキ&OZ風なハードロックを聞かせます。」(青木秀一・オーバー・ナイト・センセイション)

水前寺 清子

17日

PM.1:00~

PM.6:00~

¥?....

主催 民音 (54-7193)

商大室内管弦楽団10周年記念演奏会

3日

PM.6:00~

¥300-

正味には7ラッシュも

聞いてみるという

時には7オールドで

出かけるキャネ。

市民劇場

24日

25日

大人 800円

小人 200円

市民会館

です

福村記

16日

大人 300円

小・中 無料

主催 青年会議所

市民会館

です

「新入学おめでとう大会」

10日

入場無料

PM.1:00

市民会館

です

3-2

乳警公演

指揮 岩城敏

PM.5:00

入場料 未定

主催 音鑑

情報 くれ

7700

小樽店
☎22-3031

手稲店
☎683-5362

OTARUSHI HANAZONO BEER. 400. DANBEI. 2001. 74-6. 301

おしらせ

先月の1月15日、苫小牧市民会館大ホールで、グループZZEROの1STコンサートが300人を集めて大成功に終わりました。これを契機に苫小牧にも夢の街づくり実行委員会が出来たそうです。現在構成員は30名位。どうぞですが、小樽の夢街とも地元文化の向上をめざして活動を始めようという事です。

連絡先 居酒屋「土蔵屋」
住所 苫小牧大町一の一
TEL 36・0955

みしま基光 個展
小樽運河
2月10日(日)14日(水)
午前11時~午後7時迄
所 大國屋デパート 5階ホール

* 10年間振り続けて来た小樽運河の総集編。四季おりおりの光に包まれて変化する小樽運河の表情を見ていただきたい。この個展を記念して最近作の小樽運河6ッ切プリントを特別に限定販売します。

幻視舎シネマ・テイク 映画上映案内

金井 勝 映画王国
自主制作映画運動のはりりとして注目を浴びた傑作!!

●「無人列島」 54分 69年
(主演) 田知美、佐藤重臣
金井 勝

●「王国」 1時間24分 73年
(主演) むささび童子 大和屋笠 佐藤重臣

2月24日(土)、25日(日) 稲穂倶楽部
PM6時30分上映
前売り700円 当日900円

* 幻視舎通信

道内初本格的自主制作映画
「赤い花なら地平線」中島洋監督
3月末 小樽公開予定

輸入雑貨 & COFFEEのお店

December 3

この冬アルパカセーター(ペルー製)を着てみませんか!

INAHO2-11-3 TEL0134-22-9973

飲み処 みくらチェーン

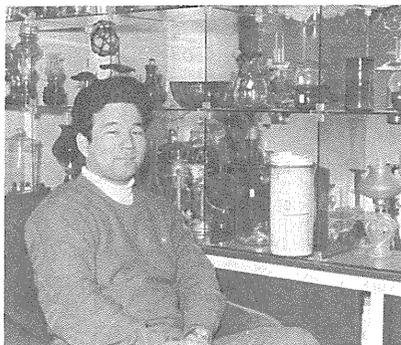
- 若松「みくら」
- 稲穂「パール」
- 嵐山通り「おとずれ」
- 手宮「琴」

全店女性募集 TEL 23-1880

PICK UPS

白夜の国に 小樽の灯りを

小樽と言う街は、人間の感覚としてはごく近代的、でも何かやるとなると慎重になり過ぎる見たい。ところが一度動き出すともう凄いものがある。今の時期は大きな変遷の時期かも知れない。そういつた中、北一硝子の北欧輸出のニュースが入って来たので、さっそく取材に行ってみました。



事の起こりは、北一さんが2年前、ロンドンでのガラス工芸の世界会議に出席した際、ガラスの勉強でデンマークに住んでいる日本人から、北欧のデンマークやスウェーデンの人達を紹介してもらった事から始まる。でそのデンマークに住んでいる人が仕事上日本の伝統工芸品を世界各国(おもに北欧諸国)に輸出していると言う事で、この前の12月に東京に来た時に小樽に足を伸ばして来て、そこでいい機会なので北一硝子の製品を持って行ったと言う事だそうである。

今回持って行ったものは、電球の傘とか、一般家庭用の食器、あと灰皿のようなテーブルウェアなんかが多いそうです。最近ではハンドメイドのもの、本物が本物として認められて来ていると言ってもいいでしょう。

最近、新装開店となった北一硝子の建物も、北欧風のエキゾチックさなんかの現われが、北一さんの北欧思考みないなものかも知れません。

「今はいろいろな面でもヨーロッパ的なものになって来ていると思います。古い建物でも小樽の運河や倉庫付近ばかりじゃなくて、気を付けて見ると、普通の民家でもヨーロッパスタイルが見つけられますよ。」

「経済的なものについては、日本は非常に進んでいますが、物の考え方は、北欧と言うかヨーロッパの方がずっと進んでますよ。特に余暇の問題、余暇を十分に楽しむんだ、だから必要以上の金儲けなんかはしないで、言う考え方はなんですよ。」と北一さん。

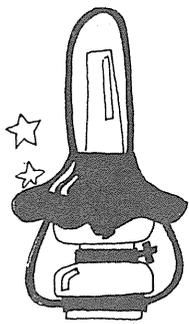


今度はヨーロッパの話しを聞きに別の取材で来ようかなんて考えたりして、「ウチの店もいろいろ賛否両論ですけども、楽しい街づくりの一つになればと思っています。」

「今回の事は、ウチの製品なんかは、情報、つまりTHINK TANKから成り立っているんです。だから一人一人のお客さんの意見を取り上げて行こうと言う事で、ヨーロッパの意見も、と言うところですね。」

とにかく、小樽の外に目を向ける意味で、海の向こうにも目を向けようと言う事ですよ。今年はやりますよ、皆んなの期待している様な事をやって見たいですね。あらゆるチャンスをとんとん積極的にやった方がいいですよ。」

「今年はやると言った北一さんの目の輝き、何が起るか乞う御期待！」



君のまわりにも
ホットグッドな
ニュースがあったら
知らせね!!

まち・みせ・あじ 三四郎

小樽の飲んべえ連中の活力源、ホルモン焼と成吉忠汗の「三四郎」は、花園浮世通りに…… あった！ うっかりしてると見過しちゃうのだ！ ちよっと奥の方に入っている所がありました。

この「三四郎」に我々スタッフが取材に行ったところ、ここのオバチャン(本名 前林ユキ子さん)が、「ダメ、ダメ」の連発で本当に取材を拒否しているのかと思ったら、オバチャン、テレてるのですよ。ここらあたりあの年してかなりカワイイかったです。

三四郎

このオバチャンがこの店を開いてからもう11年にもなるそうで、このキャリアこそ本格派のたれやいい肉を出せる訳なのであります。

オバチャンに話を聞いて見ると、この焼肉は本当に精がつくみたいで、鼻血出して帰った客もいるんだと。それにオバチャンはかなり主観的に、この店やっつて、「お客様は神様です。」なんて全然思っていないから、酔っぱらってあんまりわからん事言うと、オバチャンに焼肉の代わりにケンカ売られる事になるから注意！

この前も一戦交えたそうです。と言っても恐い人じゃなくて、要するに客と店の者という関係である前に、人間と人間との心のふれあいをモットーにしているのであります。リップス

オバチャンが「カアサン忙しいのさらい。」って言ってたけれど、一度このオバチャンに会ってミテヨ。

面白い昔の話なんか聞けるし、うまい焼肉食って精もつくし最高デスゾ。おすすめメニュー。ホルモン 250円 成吉思汗 350円、レバ刺し 豚 300円、牛400円などなど。ビール、酒、焼酎もあります。

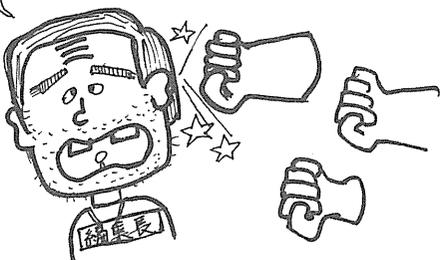
営業時間 PM 11時 ~ AM 6時迄



……「肉談直撃」の企画は、おもしろいと思いませんか？

肉談直撃

読者の声



ふとしたきっかけで目にした雑誌ですが、写真やイラストが盛り沢山で、とてもユニークだと思います。銭湯めぐりなんか興味深いと言うか楽しく読ませてもらいました。

これからはインフォメーションなど珍しい事が沢山載るよう期待しています。

「ふいえた」創刊号を読ませていただき、昨夏の「ポトフエステイブル」、「夢の街づくり実行委員会」の若者達の意気を感じ、彼らの活躍に期待すると共に、編集者諸君のますますのガンバリをお願いします。(市内・頑固翁)

ワイイ!! おもしろくなかったぞー読み物満載、イラストゴッチャリヌード写真が売り物って聞いたのにまあこの次はガンバレ!

(赤頭巾ちゃんのお父さん)

諸君らの雑誌に対する熱意と思想には、全く頭が下ががる思いです。これからの諸君らの現実を直視する眼と持ち前の行動力で、明日の文化都市「小樽」のリーダーシップとなつてもらいたい。

(滝原物産 常務)

園児募集
働くお母さんのために、産休明けからの保育をしております。
どんぐり共同保育所
長橋2-18-12
TEL 32-8935

創刊号の編集後記にのっております、「小樽郵便局 私書箱一号迄」と言うのは、冗談ではありません。夢の街づくり実行委員会の所有の私書箱です。気軽に御意見、御希望をお寄せ下さい。(編集部)

……このコーナーではいろいろ好きなことを、下書き、お手紙、お便り……



昭和五十四年二月十日発行、発行所、夢の街づくり実行委員会 印刷・米沢印刷紙業株 二〇〇頁